

令和7年度学校評価報告書

令和8年（2026年）3月19日

北海道教育委員会教育長 様

北海道美幌高等学校長 川 添 雅 文

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- | |
|---|
| 1 個に応じたきめ細やかな指導により、社会で生きていく上で必要な学力を身に付けさせる |
| 2 心豊かな人間性を育み、多様な他者と協働し、主体的に課題を解決できる資質能力を身につけさせる |
| 3 地域と連携した教育活動を実践し、地域社会を支える人材を育成する |

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導 ・ 進路指導	学習指導では、PDC Aサイクルによる実施状況の点検、進路指導では進路実現に必要な学力向上に向けた取組みに関する課題が見えた。一方、保護者等への情報提供や、資格取得や試験対策に向けては高評価となった。	進路実現のためのロードマップを作成し、必要な取り組みを行うことや、関係機関と連携することに対して、高い評価を得た反面、学力の基礎基本の定着や教科横断型・探究的な学びに対する課題が明確となった。
改善方策	教科横断型・探究的学びのために、PDC Aサイクルによる学習指導に対する不断の検証を実施していく必要がある。また、保護者への適切な情報提供を行いながら、キャリア教育を継続していくことが重要である。	
生徒指導 ・ 健康・安全 指導	物事の善悪の判断、自己管理意識を高める取組に対する評価が高い。また、保護者等や関係機関等と連携し、適切な情報提供や情報交換することに対しても高い評価となっている。一方、生徒理解に努め、適切な教育相談を行い、組織的に対応していることに対する評価が低い。	生徒理解に努め、適切な教育相談を行い、組織的に対応していることに対する評価が高いが、健康安全指導や特別支援教育に関する充実が求められている。
改善方策	教育相談に対する評価は、自己評価と学校関係者評価で分かれることとなった。個に応じた相談体制の充実など、課題の共有をとおして、学校全体として生徒に寄り添った対応の見える化が必要である。	
地域と繋がる学校 組織運営	社会に開かれた学校の領域評価が最も高い。特に、地域、保護者等から理解や協力を得て活動することについて高い評価となった。一方、組織運営が最も低く、特に業務の適切な分担及び業務遂行の円滑化、効率化に向けて行動していることについては低い評価であった。	外部の人的、物的な教育資源の積極的な活用や、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組を研究することに対して高い評価を得た。一方、保護者や地域に対する信頼関係の構築、学校経営に参画する意識をもって積極的に取り組んでいく姿勢に対する課題感が明確となった。
改善方策	地域の教育資源を活用した本校の教育活動には、外部からも高い評価を得ている。一方で、多くの学校課題に対して教職員が自分事として捉え、主体的に学校経営に参加する姿勢には弱さが見られる。学校魅力化へ、個々の職員が前向きに学校経営に参画することが求められる。	
公表方法	本校ホームページに掲載する。	

3 添付資料

学校評価（自己評価・関係者評価）
保護者・生徒アンケート